

韓国環境部プレスリリース 2019年10月24日付

以下、機械翻訳などによる仮訳

京畿道坡州市長湍面石串里の民統線内の同一地点で発見されたイノシシへい死体 2 個体からアフリカ豚コレラウイルス検出（野生いのしし 13-14 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?boardMasterId=1&boardId=1067740&menuId=286>

【本文】

環境部所属の国立環境科学院（院長チャン・ユンソク）は京畿道坡州市長湍面石串里の民統線内で発見されたイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルスが検出されたと10月24日明らかにした。

10月23日午前11時10分ごろ、農民が、民統線内の唐辛子畑で並んで横たわっている2頭のイノシシへい死体を発見し、坡州市に連絡した。坡州市は科学院に通報後、「野生イノシシアフリカ豚コレラ標準行動指針」によって死体を埋却後、試料を国立環境科学院へ移送した。

※試料採取及びへい死体埋却後の作業者の消毒、周辺防疫作業の実施

科学院の現場対応班は午後2時30分ごろ、現場に到着し、イノシシからの試料と周辺環境試料（土壌）を採取して分析に入り午後11時50分頃、アフリカ豚コレラウイルス検出を確認した。これで現在まで確認されたイノシシでのアフリカ豚コレラは計14件に増えた。チョン・ウォンファ国立環境科学院・生物安全研究チーム長は「この10月16日に続き、坡州で2例目のウイルスが検出された。最初に検出された長湍面巨谷里から約1km離れている」として、「早いうちにフェンスを設置する予定だ」と伝えた。

（以上）